

第 638 回：日本人の私が英語を話せるようになるまで パート 2 (MK)

前回『日本人の私が英語を話せるようになるまで パート 1』では、日本で生まれ育った私が、どのように英語学習のモチベーションを維持してきたのかについてお話ししました。今回のパート 2 では、「英語を話せるようになるには、具体的に何をすればよいのか」を、私自身の経験をもとにご紹介します。

英語の学習法は目的によって異なります。そこで、今回は以下の 2 つに分けてお話しします。

- ・英語資格（英検・TOEIC・TOEFL・IELTS など）の取得のための勉強法
- ・英語で日常会話ができるようになるための勉強法

まず、資格試験の勉強についてです。英語の資格は、留学や就職活動、昇進などの目標を達成するための手段となることが多く、多くの人はできるだけ短い時間で効率よく取得したいと考えているのではないのでしょうか。

そのため、参考書選びは非常に重要です。私がおすすめする参考書のポイントは、次の 2 つです。

- ① 日本語の解説ができるだけ少ないこと
- ② 過去問や本番形式の問題が豊富に掲載されていること

日本語の説明ばかり読んでいると、実際に英語に触れる時間が少なくなってしまう。そのため、必要最低限の解説で、英語を読む・考える時間を多く確保できる参考書がおすすめです。

また、資格試験では本番に近い形式の問題を数多く解くことが重要です。過去問や

実践問題を繰り返し解くことで、出題傾向に慣れ、本番でも落ち着いて問題に取り組めるようになります。限られた勉強時間を有効に使うためにも、参考書は何冊も買うのではなく、自分に合った 1 冊を繰り返し使うことをおすすめします。

次に、日常会話ができるようになるための勉強法についてです。この点で私が一番効果があったと感じる方法は次の 2 つです。

- ① 自分より英語を話せる人と英語で会話する
- ② 自分で問いを作ってそれに対する回答を一人で考えて声に出して答えてみる

より自然な発音や表現、会話のテンポを身につけるためには、自分より英語を話せる人と実際に英語で会話することが効果的です。現在、世界では約 15 億人が英語を使っており、さまざまなアクセントや話し方があります。そうした多様な英語に触れながら、自分より英語力の高い相手と会話することで、新しい表現や自然な言い回しを学ぶことができます。

一方で、英語で会話をする機会は毎日あるとは限りません。そのため、一人でできる練習として、自分で問いを作り、その質問に対する答えを英語で考えて声に出して答えることをおすすめします。実際の会話を想定して練習することで、英語を組み立てる力が身につき、とっさに自分の考えを英語で伝えやすくなります。また、会話の前にあらかじめ答えを準備しておくことで、自信を持って話せるようになり、実際の会話でも落ち着いてコミュニケーション

第 638 回：日本人の私が英語を話せるようになるまで パート 2 (MK)

をとることができます。

今回は、私が実際に効果を感じた英語の学習法をご紹介します。少しでも皆さんの英語学習の参考になれば幸いです。次回は、英語学習を続けるうえで私が大切だと感じている「考え方」や「心構え」について、私自身の経験を交えながらお話ししたいと思います。